



なでしこ

東京都杉並区立大宮中学校 学校だより

令和4年10月31日 第6号(19-59)

発行責任者：校長 関田 誠

『大宮中精神：優しさをもって、夢や目標に挑戦する若者であれ！』

10/17 朝礼校長講話 『吐くという字は口へんに十と一』の話

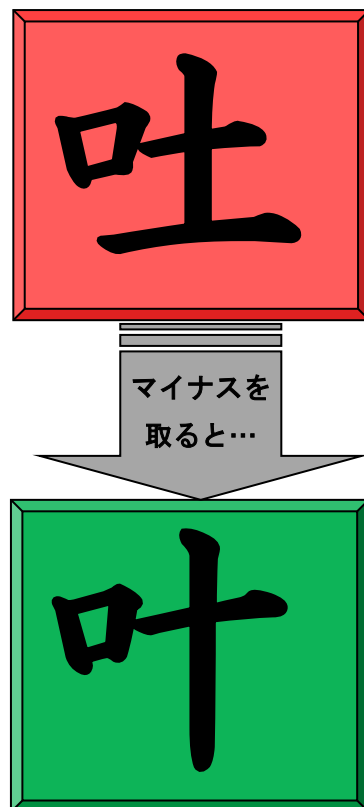
～ヒトは使う言葉で作られる～

10月是一年間の折り返し。今朝は、音楽発表会直前の皆さんに、クラスの合唱の成功のコツを話します。以前オリンピックのメダリストや、逆にあと一歩でメダルを逃した人の名言や感動した言葉を紹介するTV番組で、『使う言葉の大切さ』の話を視聴しました。その中でのエピソードに、『吐』という漢字の話題がありました。この字は、口を書いて右に十（プラス）と一（マイナス）と書きます。私たちは口から前向きなプラス思考の言葉、後ろ向きでマイナス思考の言葉を、毎日意識せず使います。マイナス思考の言葉ばかりを使っているのは、少しも前に進むこともできないし、自分の目標や夢を達成しにくいそうです。理由は、自分の言葉が自分の心にブレーキをかけて、まわりと嫌な壁を作ってしまうからだそうです。

番組で（ほう！）と思ったのは、そのアスリートが、『吐く』という字のマイナス（横棒）を取ると、なんと『叶う』になる（！）ことに気付いて、口から前向きなプラス言葉をどんどん発していたらメダルの夢が叶ったという話でした。例えば「（自分は、私達は）できる、やれる、頑張れる、みんなで頑張る！」という風に。私は番組を視聴しながら、『吐く』と『叶う』という漢字に、単なる言葉遊び以上の深いものを感じました。

現在、合唱に挑戦中の皆さんのクラスはどうか？コロナの影響で、三年ぶりに挑戦する合唱です。お互いに前向きな言葉をかけ合っていますか？「無理」とか「できない」とか「間に合わない」という後ろ向きなつぶやきはありませんか？誰かがムードメイクするのではなく、自分がプラス言葉や笑顔でムードメイクできたら最高です。その時間はまだあります（これもプラス言葉）。ぜひ使う言葉を大切にして、素晴らしい合唱を披露してください。また三年生の皆さんは、いよいよ進路選択の正念場、一、二年生は充実の秋、収穫の秋を迎えます。ぜひクラスや部活動の仲間との良い雰囲気作りに、口から発する言葉に注意してみてください。

十（プラス）の言葉を発して夢を『叶える』。これは『誰でも』『今から』『タダで』できる成功のコツです。心理学的にも理に適っている行動だと、私は思います。自分の言葉を一番近くで聞いているのは自分の耳なのです。ヒトは使う（しゃべる、聞く、考える）言葉で作られるのです。感動と達成感の残る価値ある行事にしましょう。😊



授業ぶらっと訪問②④

10/24 (月) ③田口先生 C組美術

C組の生徒が美術室に集まっています。全員エプロンを着けての授業です。チャイムが鳴ると号令がかかり、気持ちの良い挨拶から始まりました。この時間は、世界の名画から自分で模写したい作品を選んで描いています。生徒はピカソ、ゴッホ、ウォーホル等の世界の名画、日本の北斎、応挙等々の作品を選んでいきます。これまでの授業で、下絵はカーボン用紙でなぞってコピーしています。それにアクリル絵の具を使って色を付ける段階です。塗りたい色をつくるのが悩ましそうで、田口先生は13人の



生徒に、次々呼ばれて大忙しです。色の混ぜ方(何色をどのくらいの分量で混ぜるか)や表現技法(筆や割りばし棒、綿棒を使って点描)について丁寧に相談に乗っています。机の間を動き回って、笑顔で「お待たせ～」と言いながら、生徒に寄り添って一緒に筆をとったり、ガムテープを貼るのを手伝って塗る場所を決めたりしています。

後半には塗り終わった色をドライヤーで乾かす人も出てきます。どの生徒も集中しながら、全員テキパキと動いていました。中には田口先生を呼ばずに一心不乱で筆を動かしている生徒もいました。あっという間に50分が過ぎました。二時間続きの授業の前半が終了しました。一月の区内六校で行う作品の発表の機会(セッションが使えないのでネットを使って公開する)があるそうなので、出来栄が楽しみです。

10/25 (火) ①田中先生 1B 少人数英語

英語の挨拶の後、小テストを行います。その前に素早く英語の問答をしながら、小テストの内容の事前確認をします。田中先生優しいなあ。小テストは2分間です。集中して取り組んでいますが出来栄は？終了後、田中先生は13人の机を回ってプリントを回収しています。すると「やばいなあ…」と言いながら田中先生の表情は曇ります。どうやら生徒は期待したほど勉強してきていない様子です。定期考査前だけでなく、日常的にしっかりした家庭での自学自習(塾ではない)は、この時期から必要です。

私も(うーん…)でした。

今日の授業の中心テーマは『Which』。英語科先生自作の学習教材の画面を使って、様々な『どっ



ち』を学習しています。面白い比較がたくさん出てきます。たけのこの里 vs きのこの山、犬 vs 猫、和食 vs 洋食、お金 VS 愛情(ちなみに生徒に挙手を求めたら、お金8人、愛情5人だった…)、英語 vs 数学(数学の圧勝だった。その結果に田中先生、三学期には逆転させてやる!と誓っていました)。Which do you like~を使いながら、自然に定着を図ります。

その後はペア学習です。別の画面を見ながら質問、返答を繰り返します。例えばBTSについてWhich do they sing, MAYONAISE or BUTTER?とかWhich does he(Ohtani選手) play, baseball or soccer?等々。今どきの生徒の関心の高い教材を作っています。

次に、『Team work game』。生徒の質問者が「Which do you like, apples or oranges?」と聴いて、三人が同時に答えます。3人のlikeが合ったら3point、2人なら2point、誰も合わないとゼロというゲームです。ラーメン vs 寿司、南国のビーチ vs 雪山、トランペット vs ハモニカ等交代で質問して、回答が一致するとワッツと盛り上がり



っています。4チームで加点を競い合っていました。(He likeとか堂々と言っている生徒もいましたが…)最後にワークブックの関連ページを示して、宿題として終わりました。「楽しかった」という生徒の声が出ていました。

10/24 (月) ⑤小池先生 1A 保健

体育館に行くと、講師の小池先生の一年生の器械体操のマット運動です。今年度から完全男女共修で

授業を進めています。一年生は男子が10人、女子が15人です。見学者が1人います。フロアにはマット6枚が敷いてあります。一枚につき四人ずつ、男女別々に準備体操をしています。授業開始から10分間、グループ別に準備体操をしていました。声を合わせながら、それぞれで柔軟体操などで身体



を温めています。最初に前後開脚で脚を縦、横に開きます。股関節の柔軟性に個人差が大きい様子です。この後の開脚を使った体操に影響します。

マット運動は前転、後転を二回ずつ繰り返し練習します。クルクルと上手に回れる生徒が多いです。次に前転一回、後転一回を連続で行います。立ってからポーズも決めます。最後は開脚の前転、横転です。小池先生はそれぞれの体操のポイントを良く通る声で伝えます。全員真剣に練習を行っています。

最後に実技テストがありました。開脚前転から向きを変えて開脚後転の連続技です。最初に見本の生徒二人が演技を行い拍手が出ました。上手です。小池先生がA、B、Cの評価のポイントを伝えます。



男女がマットの横に並んで見学して、一人ずつ演技を行いました。終わると見ている生徒から拍手が出ていました。終わりに全員で協力してマットを三つに折って、片付けも楽しそうに動いていました。最後まで和気あいあい、伸び伸び活動していました。

10/24(月) ①滝川先生 3A 家庭

家庭科の授業です。『家族、家庭と子どもの成長』の領域の授業です。前回は幼児の遊びの環境について学習したそうです。生徒の学習カードを読むと、「体の発達や成長によって、遊び方が異なることを

知り、自分も成長していくにつれて、遊び方や興味が変わったことを思い出した。幼児と遊ぶときは、小さすぎるおもちゃを選ばないことや、STマークがついているものを選ぶことが分かった」と書かれていました。なるほど、素敵な感想です。

本時は、幼児の遊びと発達の二回目です。家庭科は講師の滝川先生です。黒板の字はとても読みやすいきれいな字です。自作プリントを使いながら、子どもの遊びを支える環境についてポイントを押さえます。少子化で子どもの数が減り、都市化で自然環境が減り、高度情報化でネットが身近なものになっていることで、子どもを取り巻く環境が激変していることを、生徒に理解させます。滝川先生は「地域に公園をつくる計画が上がると、子どもの声がうるさいと反対運動が起きてしまいます」と、この事を生徒にどう考えるか投げかけていました。

地域社会で子どもが遊べる環境づくりとして、身近なイベント、施設を生徒に挙げさせます。生徒は各自で考えて相談を始めます。次に遊びと発達の種類を考えます。運動遊び(ダンス、ボール、鬼ごっこ)、受容遊び(音楽を聴く、絵本を読む等)、模倣遊び(ごっこ遊び、おままごと)、構成遊び(積み木、お絵かき、ブロック)と分けていきます。



後半には滝川先生の現在進行形の子育て体験からのエピソードが挿入されます。「子どもと触れ合う時は、言葉遣いに気を付けることはとても重要です。例えば親が幼児に「うるせーな」と言えば、幼児からそのまま「うるせーな」と返されてしまいます」と笑顔で話します。それを聴いている生徒も(なるほど、確かに!)という風に、うなずきながら耳を傾けていました(私、校長もうなずいていた一人でした)。最後に、授業カードに今日の授業のまとめと振り返りを記入している時にチャイムがなりました。もしかしたら今日の授業を聞いた三年生が、大人になってから「うるせーな」のエピソードを思い出す日が来るかもしれませんね。

スローガン：一生声春

～永遠に忘れない思い出を歌で～

コロナ禍の影響で、音楽発表会は三年ぶりの開催です。ようやく『歌声の春』の季節が訪れました。当日は体育館に、保護者一年 80 名、二年 64 名、三年 73 名、C 組 19 名、CS 委員等、240 名の参観をいただきました。ありがとうございました。

一学期の終わりに、音楽の授業から合唱曲の練習や準備が始まりました。生徒は誰一人音楽発表会の経験がありません。教職員で復活のための知恵を絞りました。二学期、9 月 17 日の土曜授業では、区内の私立杉並学園高校の OBOG による菊華アンサンブルを招聘しました。アマチュアの全国水準の合唱に触れた後、指導者の荻上貴美子先生に各学級のご指導をいただきました。菊華アンサンブルの方々のマスク越しからでも、素晴らしい合唱への情熱が伝わり、生徒も教職員も大きな刺激を受けました。



定期考査が終わり、10月の声を聞く頃、玄関の大型モニターで、過去の音楽発表会の動画を毎日流しました。生徒が登校してから夕方下校時まで、卒業生の動画を流して、大宮中の音楽発表会の雰囲気を与えました。モニターの前のベンチに座って、「誰々のお兄ちゃん、お姉ちゃんがいるよ」「このクラス上手！」等々の会話が聞かれました。



体育の日の三連休が明けると、いよいよ各学級の20分×2回の放課後練習が始まりました。この頃は指揮者の腕の動きはぎこちなく、歌っている方も楽譜に目が釘付けの状態でした。そこから練習を重ねるごとに実行委員を中心に全員で、合唱の出来具合に意見を出し合い磨きがかかります。4日前のり

ハーサルを経て、いよいよ本番を迎えました。生徒練習への取り組みは、コロナ禍の前より集中力とやる気に満ちている気がして、正に『一生声春』です。ここまでのプロセスは100点満点でした。

当日は朝の声出し練習を経て、緊張の中でC組の合奏と合唱から始まりました。今回初めて合唱に挑戦したC組の『花は咲く』は聞いていて、うきうきと嬉しくなりました。一年生から始まった合唱は、初めてのステージと思えないくらい堂々とした



合唱を披露します。二年生は声のバランスのとれた落ち着いたハーモニーを響かせます。最後の三年生の合唱は、課題曲『南風』を聴いていて、三年生が歌えて良かったのと、私は感動で涙がにじみました。審査の結果は、2年B組のバランスのとれた美しい歌声の課題曲『My own road』自由曲『カイト』が最優秀賞、そして優秀賞に3年A組の大人の歌声の『南風』自由曲『サザンカ』が受賞しました。表彰式での2年B組代表生徒から「予想外の賞への驚きとうれしさ」、3年A組の代表生徒から、「正直言って悔しい複雑な気持ちと仲間への感謝」が語られました。自由曲印象画のポスターコンクールは3年B組『手紙』が選ばれました。



二大行事の音楽発表会を通して、真剣に取り組んだ大宮中生が、絆や達成感を得ることができた濃密な時間は、こうして幕を閉じました。

(補足：PTA 教職員のコーラスも頑張りました！生徒には大受けしました。出場された皆様、お疲れ疲れさまでした。)



なでたろう音楽発表会編の動画 URL はホームページに掲載しています。